言者ムハンマド （４/１２）： マッカでの迫害

：

明:この 事の 明：イスラ ムの 言者の布教初期、そしてイスラ ムの信徒に する迫害について。

目: 事 言者ムハンマド彼の

より：IslamReligion.com

日06 Dec 2009

集日 21 Oct 2010

初期の改宗者

言者としての使命における最初の数年 、 言者ムハンマドは家族と 密な友人たちにのみ宣教をしました。最も最初に改宗した女性は彼の妻ハディ ジャであり、最初に改宗した未成年は彼の 兄弟であり彼の を受けていたアリ 、そして最初に改宗した奴 は彼に仕え，その 解放されたゼイドでした。彼の旧友アブ バクルは、自由成人男性としては最初の改宗者です。 に 言者は彼に してこう述べています： ‘ でもイスラ ムに呼びかけられると最初は 躇するが、アブ バクルだけは例外だった。’

その 、公に偶像崇 を禁じ、布教する命令が神によって下されました。当初はクライシュ族の 老たちもこの‘奇妙な集 ’を し、ムハンマドを自己欺 に った悲しい事例であるという位に なしていましたが、徐々に彼の布教に 者や困 者を中心とした人々が え始めると（それゆえ破 的であるとみなされたのでしょう）、マッカの宗教とその繁 への で あると捉え始められたのです。しかし、彼らは真っ向から 立することを望んではいませんでした。彼らの 力はその 束性に大きく依存しており、部族 の抗争によって分裂していたヤスリブ(在のマディ ナ)に起こっていたことの 然たる例は彼らをより警戒させ、迫害の好 をうかがわせたのです。さらに当 の部族社会では、例えその一 が部族全体にとって好ましくない者であったとしても、もしも他者から攻 を受けた 合には彼を保 し

なければならない　上の　があったため、ハ シム家は断固として彼を　しました。 って彼ら（クライシュ族）は中 作 に出ました。それは暴力につきものの 任が伴わないため、真を封じ めるのに最も 果的な武器だったのでしょう。当 のムハンマドの庇 者アブ　タ リブが彼の布教に答えなかったのは、自分と部族の安全のためでした。ムハンマドは言いました: ‘叔父よ、例え彼らが私の右 に太 、左 に月を持って来たとしても、私は神が成功をもたらしてくれるまで、死ぬまで自分の目的を断念する意志はありません。’
アブ　タ リブは溜息をついて言いました: ‘私の甥よ、私はあなたを　ぞ。’

ムハンマドの影 力が まり、クライシュ族の 老たちの主　に が付き、彼らの部族内に分裂が られるようになると、月を追うごとにマッカの　感は して行きました。そしてこの兆候として 示が え、その内容にマッカの金 政治の冷淡さに する 劾、彼らの 欲さの指摘などが含まれるようになってくると、支配 にとって更に危 なものとなりました。やがて立はアブ　ジャハルとアブ　ラハブ、そして 者の 兄弟であり、彼らより若く才能に溢れ、算高いアブ　スフヤ ンによって率いられるようになりました。ある日、彼らと中立の立だったムハンマドの叔父ハムザが狩りから って来ると、彼は彼の甥に する中 を耳にしました。それに酷く腹を立てた彼は真っ先にアブ　ジャハルの元を れ、彼の を弓で叩き付け、その でイスラ ムへの改宗を表明したのです。

迫害の始まり

言者としての使命 始から3年目が　した 、 言者に“立ち上がり、警告せよ”という命令が下され、公での宣教が 始され、神の かしい 造に する偶像崇 という卑劣で愚かな行 の非がさ行われ始めました。彼らの神々が非 されると、クライシュ族は遂に　的な　行 を始め、ムハンマドの しい教友たちを虐げ、嘲笑し、侮辱したのです。彼らがムハンマドの害をためらったのは、彼の出身部族による血の　を恐れていたのでしょう。クライシュ族はムハンマドの教えを嘲り、その追 者を落胆させるためには何でもしましたが、 言者は力 い警告と　を けたのです。

アビシニアへの避

布教初期４年 の改宗者たちの大半は、そういった迫害から身を守ることが出来なかった弱い立 にある者たちでした。彼らが耐え忍んでいた凄惨な迫害に して、可能な者は一 的にアビシニア（ 在のエチオピア）へ移住することが 言者によって められました。そこには であれ良い待遇をもって迎えることで知られた、キリスト教徒のネグスという‘公正なる王’がいたからです。西 614年、 80名の改宗者たちはそのキリスト教国家に避 しました。

しかしこの一 すると他国 力との同盟にも える出来事にマッカの人々はさらに激怒し、ムスリムたちの引き渡しを求める使 をネグスに送りました。そこでは法廷において大きな が交わされました。しかしムスリムたちが、彼らがキリスト教徒と同じ神を崇 しているという事 を 明し、それから 母マリアに するクルア ンの を朗 すると、ネグスは してこう言ったのです: ‘ にこれはイエスがもたらしたものと同じ源泉を共有するものだ。’こうしてムスリムたちは 利を ち取ったのです。

こうした迫害や避 にも わらず、ムスリムの数は え けました。クライシュ族の 念は 点にしていました。全アラビア半 の 地であるカアバ神殿における偶像崇 は、彼らにとっての保 そのものでした。マッカの外から多くの巡礼者が押し寄せる巡礼期になると、彼らはありとあらゆる道筋に、彼らの中で宣教を行なう‘狂人’ ムハンマドのこと に する警告を行ないました。彼らは、もし 言者が彼らの神々を め、それらに神の仲介者としての地位を与えるよう宗教に 更を加えるのであれば、イスラ ムを めるという妥 案も画策しました。彼らの神々への攻 を阻止する 返りとして、彼らは王位の提供も 束したのです。しかし 言者ムハンマドの断固たる拒否は、その交 における彼らの努力を 挫させました。

ウマルの改宗

マッカで最も恐れられていた若者の一人、ウマル ブン ハッタ ブの改宗も特 すべき重要な出来事です。彼が生まれ育った教えとは正反 の新しい宗教が めつつある成功に激怒した彼は、それがもたらすであろう 果をも熟 することなく、ムハンマド（彼に神の慈悲と祝福あれ）の 害を誓ったのです。しかし彼はそうする前に、まず自分の家族がど

うなっているか かめるよう促されました。彼の妹とその夫はイスラ ムに改宗していたのです。彼は彼らの家へと んで行くと、彼らが‘タ　ハ 章’と呼ばれる章を朗 しているのを　しました。そして彼の妹がイスラ ムへの改宗を明言すると、彼は怒りのあまり彼女を殴ってしまいました。彼はすぐに自分が行なった ちに じ入り、彼らが何を朗 していたのかを ねました。彼女に促され、自らの身体を洗 した にクルア ンのテキストを手にした彼は、それを んで突然の 化を感じました。クルア ンの言 は彼を永久に えたのです。彼は直接ムハンマドの元を れ、すぐにイスラ ムを受け入れました。

これらの男たちはその高い社会的　において、攻 を受けるには重要 ぎる存在でしたが、新しく改宗したムスリムの大半は 困 か奴 でした。宗教を破 させるために 者は打たれ、奴 は拷 されましたが、ムハンマドによる彼らの保 には限界がありました。

あるとき、ビラ ルという名の 人奴 ムスリムが裸にされ、灼 の太 の下、地べたに括り付けられ、胸には重い石を置かれ、 きで死ぬまで放置されていました。彼は拷 から解放される代わりに、彼の宗教を放 するよう多神教徒たちから いられていましたが、彼の回答は‘????????’（神は唯一なり！ 神は唯一なり！ ）だったのです。彼が正に 死の状 だった 、アブ　バクルが彼を つけ出し、法外な身代金を支 って彼を解放したのです。彼はムハンマドの家で健康を取り すまで介 され、最も卓越し、 された教友の一人となりました。 に、いかにして人々に礼　 を知らせるかという　がなされた 、ビラ ルはイスラ ムにおける最初の??????(ムスリムの礼　から声高に礼 の呼びかけを行なう者）となりました。彼は せて背が高く、力 い声の持ち主でした。彼はふさふさした灰色の　を持つカラスの をした男と呼ばれ、拷 の に太 によって き尽くされ、唯一神への 、そして唯一神の使徒への だけが残った男と呼ばれました。

ボイコット文 の

あらゆる面で行き まっていたマッカの少数独裁者たちは、アブ　ジャハルの指 によってハ シム家全体のボイコットを宣言する公式文 を 行しました。彼らがムハンマドを追放

するまで彼らとの商 取引、婚姻　の一切を禁じる、というものでした。それから3年 、 言者はその 族と共に彼らの 点である峡谷の中に じ められた状 となりました。

そんなある 期、一部の良心的なクライシュ族が旧友、旧 人へのボイコットにうんざりし、カアバ神殿の中に放置されていた公式文 を再び　にかけることに成功しました。その文 を取り出してみると、全ての文章が白 によって食い尽くされていましたが、ビスミカッラ フンマ（‘神よ、あなたの御名において’）という言 だけが残っていました。 老たちがその　を目にしたとき、ボイコットは 止され、 言者は再びマッカ内を自由に行き来出来るようになりました。しかしその 、彼の布教に する反 派は 力を めていました。彼のマッカにおける布教は著しくなく、タ イフの町での布教の みも失 に っていました。彼の使命は思うように 展しませんでしたが、巡礼期になるとある小さな一 が喜んで彼の しを きに来ました。

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/172

著作　2006-2015 断　を禁じます。　2006 - 2023　IslamReligion.com. 断　を禁じます。